



2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年8月11日

上場会社名 日本農業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4997 URL <https://www.nichino.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 友井 洋介
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部総務・法務部長 (氏名) 永井 統尋 (TEL) 03-6361-1400
 四半期報告書提出予定日 2020年8月11日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	14,063	—	1,250	—	724	—	756	—
2020年3月期第1四半期	11,683	0.6	△192	—	△345	—	△170	—

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 △557百万円(—%) 2020年3月期第1四半期 △239百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	9.61	—
2020年3月期第1四半期	△2.17	—

2020年3月期は決算期の変更により、2019年10月1日から2020年3月31日までの6カ月間となっております。これに伴い2021年3月期第1四半期(4月から6月)と比較対象となる2020年3月期第1四半期(10月から12月)では月度が異なるため、対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第1四半期	94,726	57,488	59.6
2020年3月期	102,214	58,372	55.2

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 56,453百万円 2020年3月期 56,439百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	—	—	4.00	4.00
2021年3月期	—	—	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	7.50	—	7.50	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

2020年3月期は決算期の変更により、2019年10月1日から2020年3月31日までの6カ月間となっております。

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	27,000	—	300	—	△200	—	200	—	2.54
通期	65,300	—	3,000	—	2,400	—	1,800	—	22.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

2020年3月期は決算期の変更により、2019年10月1日から2020年3月31日までの6カ月間となっております。このため、対前期増減率については記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2021年3月期1Q	81,967,082株	2020年3月期	81,967,082株
2021年3月期1Q	3,192,332株	2020年3月期	3,192,332株
2021年3月期1Q	78,774,750株	2020年3月期1Q	78,774,991株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

前連結会計年度は、決算期の変更により、2019年10月1日から2020年3月31日までの6カ月決算となっております。これにより、当第1四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年6月30日）は、前第1四半期連結累計期間（2019年10月1日から2019年12月31日）と対象期間が異なるため、前年同四半期との比較は行っていません。

第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症拡大により経済・社会活動が大幅に制限され、個人消費と輸出の急速な減少や雇用情勢の悪化、さらに設備投資も弱含みとなるなど厳しい状況で推移しました。

このような状況下、当社グループは中期経営計画「Ensuring Growing Global 2021 (EGG2021) グローインググローバルを確実に！」に取り組み、収益性の向上とグループ力の強化を目指しております。

なお、当社グループの売上高および利益は農薬の需要期となる第4四半期連結会計期間（1月から3月）に集中する季節性があります。

当第1四半期連結累計期間の売上高は、140億63百万円となりました。利益面では、営業利益は12億50百万円、経常利益は7億24百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は7億56百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間における報告セグメントの概況は以下のとおりです。

[農薬事業]

国内農薬販売では、水稻用殺菌剤チアジニル（国内商品名「ブイゲット」）、園芸用殺菌剤ピラジフルミド（国内商品名「パレード」）などの主力自社開発品目の普及拡販に努めました。また、商習慣改善による農薬の使用時期および流通実態に即した販売への平準化を図った結果、売上高が伸長しました。

海外農薬販売では、北米ではかんきつ向けカイガラムシ防除需要の高まりにより殺虫剤ブプロフェジン（国内商品名「アプロード」）の販売が好調だったことなどからNichino America, Inc. の売上高が伸長しました。また、インドでは雨季作前に除草剤の需要が高まったことや殺虫剤フルベンジアミド（国内商品名「フェニックス」）の販売が好調に推移したことなどからNichino India Pvt. Ltd. の売上高が伸長しました。さらに、欧州ではばれいしょ枯凋剤ピラフルフェンエチル（国内商品名「デシカン」）の販売が増加したことなどからNichino Europe Co., Ltd. の業績が伸長しました。しかしながら、世界最大のブラジル市場では競争激化などからSipcam Nichino Brasil S.A. の販売が低迷しました。

これらの結果、農薬事業の売上高は121億34百万円、営業利益は7億51百万円となりました。

[農薬以外の化学品事業]

化学品事業では、株式会社アグリマートでシロアリ薬剤の販売が堅調に推移しました。

また、医薬品事業では、外用抗真菌剤ルリコナゾールの爪白癬分野の売上高が伸長しました。

これらの結果、農薬以外の化学品事業の売上高は14億49百万円、営業利益は6億12百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ74億87百万円減少し、947億26百万円となりました。これは、現金及び預金、売上債権及びたな卸資産の減少が主な要因です。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ66億3百万円減少し、372億37百万円となりました。これは、仕入債務及び短期借入金の減少が主な要因です。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ8億84百万円減少し、574億88百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加を上回る為替換算調整勘定等のその他の包括利益累計額の減少が主な要因です。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、国内外ともに新型コロナウイルス感染症拡大の終息が見通せず、企業収益や雇用環境などの悪化により世界経済の減速が懸念されます。

当社グループの中核事業である農薬事業は、食料安定化供給を支える農業生産の根幹に関わるビジネスであるため、他の業種に比し影響は限定的であると考えられますが、生産、調達などへの直接的な影響や農業を取り巻く環境変化による間接的な影響が想定されます。

事業活動継続のための施策に取り組み、中期経営計画「Ensuring Growing Global 2021 (EGG2021) グローインググローバルを確実に！」を推進し、収益性の向上とグループ力強化を目指してまいります。

報告セグメント別の次期の経営方針は、以下のとおりです。

[農薬事業]

国内農薬販売では、農薬市場の縮減傾向と販売競争の激化など依然厳しい状況が続くものと考えられます。レイミーのAI病害虫雑草診断アプリケーションを始めとした技術力と営業力の融合による提案型営業スタイルを確立させ、適用拡大による園芸用殺菌剤ピラジフルミド（国内商品名「パレード」）などの普及拡販を目指します。

海外農薬販売では、Nichino India Pvt.Ltd. のインド国内における販売基盤の底上げと原体製造機能強化に取り組むとともに新規水稻用殺虫剤ベンズピリモキサシ（商品名「オーケストラ」）の開発を加速します。米州では、Nichino America, Inc. において除草剤オルトスルファミロンの適用拡大やメキシコビジネス強化による事業拡大に取り組めます。また、グループ内のシナジー最大化の一環として、ブラジルの現地子会社による園芸用殺虫剤フルベンジアミド（国内商品名「フェニックス」）の開発を着実に推進します。さらに、Sipcam Nichino Brasil S.A. を中心にブラジルでの普及販売体制の確立に努め、当社開発品目の拡販を目指します。

[農薬以外の化学品事業]

化学品事業では、シロアリ薬剤分野において株式会社アグリマートとの協働を強化し、主力品目の拡販と新たな販路開拓による事業基盤の拡大を目指します。また、医薬品事業では、販社との協働による医療機関への情報提供を強化し、ルリコナゾールの爪白癬分野での拡販を目指します。

以上の各報告セグメントの事業環境を踏まえ、2021年3月期の業績見通しは、売上高は653億円、営業利益は30億円、経常利益は24億円、親会社株主に帰属する当期純利益は18億円であります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,010	12,423
受取手形及び売掛金	31,231	28,268
電子記録債権	1,574	2,390
商品及び製品	15,556	15,132
仕掛品	693	753
原材料及び貯蔵品	5,962	5,258
その他	3,435	1,849
貸倒引当金	△133	△159
流動資産合計	72,331	65,916
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,804	4,606
機械装置及び運搬具（純額）	3,476	3,278
土地	5,917	5,884
その他（純額）	657	647
有形固定資産合計	14,855	14,416
無形固定資産		
のれん	2,941	2,844
その他	1,251	1,211
無形固定資産合計	4,192	4,056
投資その他の資産		
投資有価証券	5,147	5,499
その他	6,053	5,132
貸倒引当金	△366	△294
投資その他の資産合計	10,834	10,337
固定資産合計	29,882	28,810
資産合計	102,214	94,726

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,699	9,321
電子記録債務	1,054	893
短期借入金	10,136	9,033
1年内償還予定の社債	264	—
未払法人税等	1,124	484
賞与引当金	656	337
その他の引当金	52	37
営業外電子記録債務	82	128
その他	6,484	6,157
流動負債合計	32,555	26,392
固定負債		
社債	2,149	1,651
長期借入金	6,508	6,595
退職給付に係る負債	658	662
その他の引当金	52	49
その他	1,915	1,885
固定負債合計	11,285	10,844
負債合計	43,841	37,237
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,939	14,939
資本剰余金	15,068	15,068
利益剰余金	31,553	31,995
自己株式	△1,728	△1,728
株主資本合計	59,832	60,274
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	583	731
為替換算調整勘定	△4,607	△5,177
退職給付に係る調整累計額	630	625
その他の包括利益累計額合計	△3,392	△3,820
非支配株主持分	1,933	1,034
純資産合計	58,372	57,488
負債純資産合計	102,214	94,726

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年10月1日 至2019年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
売上高	11,683	14,063
売上原価	7,596	9,190
売上総利益	4,086	4,873
販売費及び一般管理費	4,279	3,622
営業利益又は営業損失(△)	△192	1,250
営業外収益		
受取利息	19	18
受取配当金	43	41
不動産賃貸料	18	18
持分法による投資利益	175	239
デリバティブ評価益	39	119
その他	19	27
営業外収益合計	316	464
営業外費用		
支払利息	143	118
為替差損	306	842
その他	19	29
営業外費用合計	469	989
経常利益又は経常損失(△)	△345	724
特別利益		
固定資産売却益	—	0
特別利益合計	—	0
特別損失		
固定資産処分損	19	2
特別損失合計	19	2
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△365	722
法人税等	△90	483
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△275	239
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△104	△517
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△170	756

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△275	239
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	264	148
為替換算調整勘定	△204	△864
退職給付に係る調整額	△4	△5
持分法適用会社に対する持分相当額	△19	△74
その他の包括利益合計	35	△796
四半期包括利益	△239	△557
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△19	329
非支配株主に係る四半期包括利益	△220	△886

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しています。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

当第1四半期連結累計期間における新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定については、前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した内容から重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	農薬	農薬以外の 化学品	計				
売上高							
外部顧客への売上高	10,270	906	11,177	505	11,683	—	11,683
セグメント間の内部売上高 又は振替高	4	—	4	200	204	△204	—
計	10,274	906	11,181	706	11,887	△204	11,683
セグメント利益又は損失(△)	△421	304	△116	117	0	△192	△192

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、造園緑化工事、不動産の賃貸、物流サービス、農薬残留分析ほかを含んでいます。

2 セグメント利益の調整額△192百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△192百万円が含まれています。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っています。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	農薬	農薬以外の 化学品	計				
売上高							
外部顧客への売上高	12,134	1,449	13,584	478	14,063	—	14,063
セグメント間の内部売上高 又は振替高	10	0	10	227	238	△238	—
計	12,145	1,449	13,595	706	14,301	△238	14,063
セグメント利益	751	612	1,364	75	1,440	△189	1,250

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、造園緑化工事、不動産の賃貸、物流サービス、農薬残留分析ほかを含んでいます。

2 セグメント利益の調整額△189百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△189百万円が含まれています。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。